桐モダン

表面材：桐無垢
垣　板：１６mm厚(桐無垢)
底　板：　５mm厚(桐柾目突板)
脚　部：アイアン脚(ブラック)

桐×伝統技法×モダン

古き良き日本の伝統とモダンの融合。

ホワイト色とダーク色の2色対応



ホワイト色



ダーク色







① 矩形組み手接ぎ（ロッキング組）

「石畳組み接ぎ」、「あられ組接ぎ」とも言われ、主に箱や引出、キャビネットなどの箱物の接合部に使われます。櫛の歯状の接合部は強度を高めるだけでなく装飾性の一面も持ち合わせています。


桐部材加工


矩形組み手接ぎの接合前


矩形組み手接ぎの接合後


最後に前板を取りつけて完成です。

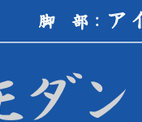
② 擦り込み

桐の引出の精度（密閉度）が大切な衣類を湿気やホコリ等から保護します。弊社は、高級婚礼家具の技術を生かして、引出の精度をより高めるために一つ一つの桐箱を擦り込み調整し差し込んでいきます。
（量産と違う精度をご確認下さい。）


桐箱部品


ダブルサンダーで一つ一つ擦り込んでいきます。


細かい調整は熟練の職人によりカンナで仕上げています。


最後に微調整、確認して完成です。

③ 底板 5mm厚(両面桐柾目突板貼)

５ｍｍ厚の底板は両面桐柾の突板貼りを施しています。突板は、天然木材を薄くスライスした表面材で木目が直線的な貴重な柾目です。芯材は、厚みにこだわりました。

底板 5ｍｍ厚(両面桐柾目突板貼)

④ 地板(スラセ)部分は、化粧(桐シート)貼り

整理タンスの引出を引く際に大切な衣類を傷つけないよう地板（スラセ）の部分は、化粧（桐シート）貼り加工を施しています。
（ベニヤむきだしのままだと大切な衣類を傷つけちゃいますよね。）

地板(スラセ)部分は桐シート貼り仕上

衣類を安心してたっぷり収納できます。

環境対応型家具

・当社の製品は構造上必要な部分には低ホルムアルデヒドの素材を使用しています。
合板、パーティクルボードは「F★★★★」のものを使用しています。
・接着剤にはノンホルマリンのボンドを使用しています。
・塗料は「F★★★★認定塗料」を使用しています。この塗料はシックハウスに係るホルムアルデヒド、トルエン、キシレン等の有機化学物質を配合せず塗膜が食品衛生法、食品添加物の基準に適合する安全型塗料を使用し塗装します。

この商品は
日本で企画・生産
されたものです。

・印刷インクの性質上、実際の色と異なることがございますのでご了承下さい。
・ここに掲載されている商品は、価格や仕様の変更、改良、生産中止が予告なしに行われる事がありますのでご了承下さい。

ホワイト色







ダーク色



88ハイチェスト
W884×D435×H1186
￥155,000（税込￥170,500）

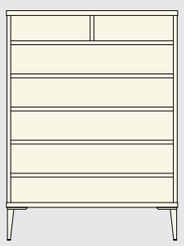


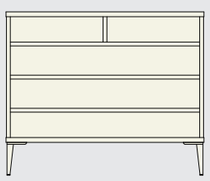
102ローチェスト
W1022×D435×H844
￥126,000（税込￥138,600）

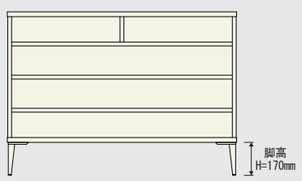


118ローチェスト
W1184×D435×H844
￥140,000（税込￥154,000）

内部図


88ハイチェスト


102ローチェスト



118ローチェスト

商品の特徴



矩形組み手接ぎ
引出のコーナーは矩形組み手接ぎにしていますので、酷使に耐える構造です。



桐ラベル
桐材をふんだんに使用している家具だけに貼ってあります。
（桐材は通気性がよく湿気が含まれると気密性が高くなり、衣類をカビや害虫から守ります。）

◆桐にはこんな特徴があります◆

日本人が古くから桐を好むのは、桐のもつ実用的な特性が、日本の気候風土に適していたからです。

[湿気に強い]
桐を用いた収納具は多孔質で水分を呼吸するように調整しています。そのため、高温多湿の日本で昔から桐箪笥や桐箱が使われてきたのは、湿度を一定に保ち、中身を湿気やカビから守っているからです。また、割れや狂いが少ないのも、桐ならではの特性です。

[保温性・断熱性が高い]
桐の材は多孔質のため、外気温の影響を受けにくく保温性・断熱性に大変優れています。昔からごはんのお櫃として使われてきたのもその理由からです。

[虫を寄せ付けない]
桐は虫が嫌うタンニン、パウロニン、セサミンといった成分が多く含まれており、虫を寄せつけず優れた防虫効果を発揮します。昔から衣類をしまう桐箪笥やお米を保存する米櫃に桐材が用いられてきたのは、害虫がつくのを防ぐためでした。

[軽い]
日本列島に育つあらゆる木の中で一番軽い木材です。桐を用いた軽い家具は、子どもや高齢者にも扱いやすくバリアフリーな家具材として近年注目されています。

[やわらかい]
桐は他の木材に比べてやわらかく、弾力性があり桐そのものは傷つきやすいですが、逆にぶつかったものを損ねないという利点もあります。また、やわらかな肌ざわりは心地よさや温もりを感じさせ、昔から素足で履く下駄の材として好まれてきました。

[燃えにくい]
桐の熱伝導率は国産材のなかで最も低く、非常に燃えにくい木です。万が一燃えても表面が炭化しやすく、内部まで燃えるのに時間がかかります。この優れた耐火性によって、桐は金庫の内張として古くから利用されてきました。

このように、四季がある湿度の高い日本の気候風土のなかで、桐はさまざまな形で私たちの暮らしを支えてきました。現代に伝わる桐製品には、桐の特性を暮らしに活かす先人たちの知恵が詰まっています。